令和元年　第 14 回飯坂総合文化祭報告

――「大滝集落の日々と万世大路」――

大滝会会長　斎藤正美

大滝会理事　鹿摩貞男

（特別会員）

はじめに

〈第 14 回飯坂総合文化祭＆子どもまつり〉

日時　令和元年 11 月 2 日（土）9:30～11 月 3 日（日）15:00

場所　福島市飯坂学習センター

（〔当日－1①②〕）

〔当日－1①〕 飯坂学習センター（福島市役所・飯坂支所）

〔当日－1②〕 飯坂町総合文化祭＆子どもまつり

昨年度に引き続き今年度も大滝会は飯坂総合文化祭（&子どもまつり）に出展しました。今年は、次のようなコンセプトで展示しています。

大滝集落は、明治 10 年（1877 年）7 月に工事が開始された中野新道（のち万世大路）建設にともない工事関係者の宿舎や飯場が胡桃平地区（字長老沢）に立地したことから始まりました。集落は、繁栄と衰退を繰り返しながら昭和 53 年（1978 年)、時代の流れの中で惜しまれつつ 100 年の歴史に幕を閉じています。

その間、大滝集落には住民の生き生きとした営み日常の生活がありました。今回はその日々の暮らしを「大滝集落の日々と万世大路」として紹介してみました。

なお、写真の表示について、展示準備や当日の模様などは**亀甲括弧**〔**当日（写真)**〕で示し、展示した写真は**隅付き括弧【写真】**で示すこととし、そのうち掲示できなかったものは机上に**【参考（写真)】**として陳列した（一部参考写真は、今回ホームページ報告用に追加したものもある)。また、展示写真の提供は、木村義吉前会長、高野英治・柾木新吉両前副会長、伊藤弘治前理事、吉田トク様、大滝会 HP（紺野文英管理人）等によるが個々の提供者名は示さないことで了

承を得ている。写真説明は、大滝会役員会で一枚一枚確認して頂いたものであるが文責は鹿摩貞男にある。

第1. 今年度の文化祭

開会式は、昨年は例年と異なり室内（多目的ホール）で実施されましたが、今年は外（玄関前）でおこなわれ、舞踊・ダンス・カラオケ・コーラス等のステージ発表も二日目に実施されるなど、例年に復されたようです。**(〔当日－2①～⑤〕、〔当日－3①～③〕プログラム参照)**

〔当日－2①〕 開会式

〔当日－2②〕 開会式

〔当日－2③〕 開会式テープカット。
手前ユルキャラ、せんきょ・モモリン・ゆげお（飯坂町、今回初披露）

〔当日－2④〕 オープニング演奏「飯坂太鼓」
（飯坂八幡神社祭り太鼓保存会）。

〔当日－2⑤〕 飯坂町マスコットキャラクター
ゆげお君です。本日デビュー（R 元 1102）。

令和元年

第14回

飯坂総合文化祭&子どもまつり

会場	11月2日（土）	11月3日（日）
	子どもまつり	学習発表会
	作品展示コーナー	
	喫茶コーナー	
	模擬店コーナー	
	茶の湯コーナー	
	としょかんdeクイズ	
	作品展示コーナー	
	おはなしひろば プチスペシャル	工作コーナー
	模擬店コーナー	
	手作り品市場	
	パークゴルフ体験	

〔当日－3①〕 文化祭プログラム

《開会式》 2日（土）9:30～ 玄関前広場

次第

1	開会	実行委員会副委員長	
2	あいさつ	実行委員会委員長	丹野 博
		飯坂学習センター館長	
3	来賓紹介		
4	テープカット	実行委員会委員長	丹野 博
		飯坂学習センター館長	
5	オープニング演奏		飯坂八幡神社祭り太鼓保存会
6	閉会	実行委員会副委員長	

◆子どもまつり 1ページ

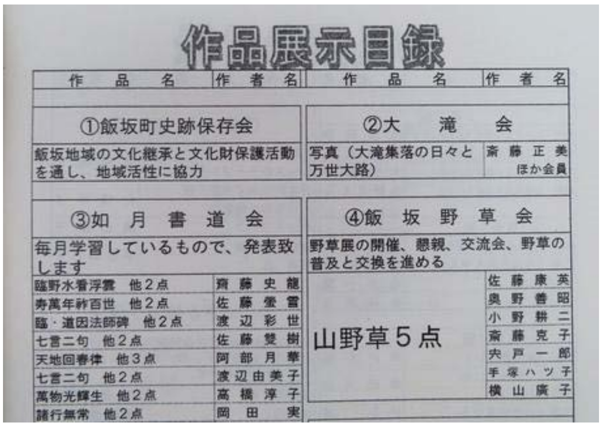
◆作品展示・茶の湯 2ページ～7ページ

◆学習発表 8ページ～10ページ

◆手作り品市場・協賛企業 11ページ

飯坂マスコットキャラクター「ゆげお」の初披露があるよ

〔当日－3②〕 文化祭プログラム（開会式）



作品展示目録

作品名	作者名	作品名	作者名
①飯坂町史跡保存会		②大滝会	
飯坂地域の文化継承と文化財保護活動を通し、地域活性に協力		写真（大滝集落の日々と万世大路）	斎藤正美 ほか会員
③如月書道会		④飯坂野草会	
毎月学習しているもので、発表致します		野草展の開催、懇親、交流会、野草の普及と交換を進める	
臨野水看浮雲 他2点	齋藤史龍	山野草5点	佐藤康英
寿萬年祚百世 他2点	佐藤瑩雪		奥野善昭
臨・道因法師碑 他2点	渡辺彩世		小野耕二
七言二句 他2点	佐藤雙樹		斎藤克子
天地回春律 他3点	阿部月華		宍戸一郎
七言二句 他2点	渡辺由美子		手塚ハツ子
萬物光輝生 他2点	高橋淳子		横山廣子
諸行無常 他2点	岡田実		

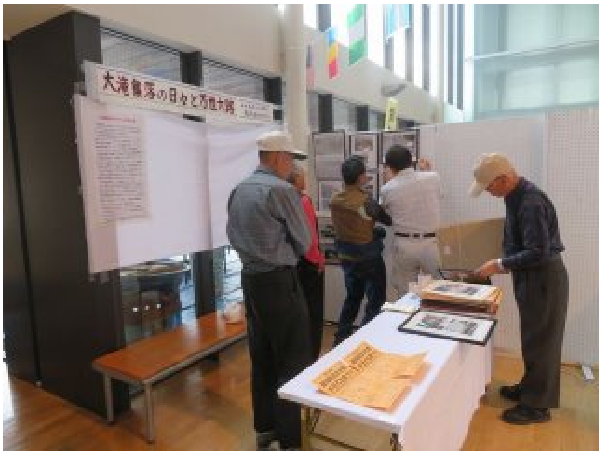
〔当日－3③〕 文化祭プログラム（作品展示目録）

さて、今年の大滝会展示「大滝集落の日々と万世大路」についても斎藤正美会長、木村義吉前会長、高野英治・柾木新吉両前副会長をはじめ役員の皆様が事前の打合わせや資料の収集、展示パネルやタイトル等の作成をおこなっております。皆様のご協力ご尽力に敬意を表します。

（〔当日－4①～④〕、〔当日－5①～⑦〕）

〔当日－4①〕 貼り出し前　大滝会ブース

〔当日－4②〕 準備作業



〔当日－4③〕 準備作業

〔当日－4④〕 展示作業終了　記念写真

〔当日－5①〕　令和元年度　飯坂町文化祭
大滝会ブース展示完了。

〔当日－5②〕 大滝会ブース プロローグ

〔当日－5③〕「大滝集落の日々」解説・掲示資料・
掲示写真

〔当日－5④〕 展示写真(1)

〔当日－5⑤〕 展示写真(2)

〔当日－5⑥〕 展示写真(3)

〔当日－5⑦〕 展示写真(4)、机上陳列(参考写真)

会場では、多くの方々が熱心に見学され、各種の質問があり役員の皆様が丁寧（ていねい）に説明しております。見学者の中には、大滝山神神社や近くの石碑の写真を持参され、大滝会役員に代わって見学者に説明する方もおられました。また、熱心に見学されていた方が、他の展示物を見学された後に再度立ち寄られるということもありました。飯坂町にお住まいの方のようでしたが、同じ飯坂町に属するとはいえ旧中野村の大滝集落というかつて一時代を築いた由緒ある山村があり大勢の人々が住んでいたことを初めて知ったようで、とても興味深かったのでしょう。

以下前日の準備状況や当日の模様（写真）を紹介します。**(〔当日－6①～⑪〕、〔当日－7①～②〕)**

〔当日－6 ①〕 観客(1)

〔当日－6 ②〕 観客(2)

〔当日－6 ③〕 観客へ説明(1)

〔当日－6 ④〕 観客へ説明(2)

〔当日－6 ⑤〕 観客(3)

〔当日－6 ⑥〕 観客(4)

〔当日－6 ⑦〕 観客(5)

〔当日－6 ⑧〕 観客(6)

〔当日－6 ⑨〕 観客(7)

〔当日－6⑩〕 観客への説明(3)

〔当日－6⑪〕 観客への説明(4)

〔当日－7①〕 観客(8)

〔当日－7②〕 観客への説明(5)

今回「福島市万世大路を守る会」（岡部達也代表）からも活動記録の展示依頼があり、併せて展示しております。大滝会は、守る会と共に旧万世大路の除草･枝払い等を実施したり栗子隧道の探索をおこなったりしています。　（〔当日－8①～③〕）

〔当日－8①〕「福島市万世大路を守る会」
活動記録

〔当日－8②〕「守る会記録」をみる。

〔当日－8③〕「守る会記録」をみる。

大滝会の隣の飯坂町史跡保存会ブースでは、今年は江戸時代に陶器を焼いた飯坂町の窯跡「岸窯跡（きしかまあと）」の出土品等が展示されていました。（〔当日－9①～③〕）

〔当日－9①〕 手前飯坂町史跡保存会ブース、
奥大滝会ブース。2階から望む。

〔当日－9②〕 飯坂町史跡保存会ブース「岸窯跡」
（江戸時代に陶器を焼いた窯跡）

〔当日－9③〕 飯坂町史跡保存会部ブース
「岸窯跡」出土品

なお、他の作品展示・学習発表会等についても若干紹介しておきます。(〔当日－10①～④〕)

〔当日－10 ①〕 工作体験コーナー

〔当日－10 ②〕 野草展（イワシャジン）

〔当日－10 ③〕 飯坂山行会写真展

〔当日－10 ④〕 ステージ発表会

第2. 写真等展示資料について

文化祭において展示した写真・資料等について紹介する。

1.今回展示の全体解説文「大滝集落の日々と万世大路」(「大滝集落内道路(万世大路)の 変遷(へんせん) 含む)等について

大滝集落の歴史を概観しつつ今回展示テーマの意義について解説文を掲示し、万世大路と大滝集落との関わりについて紹介した。併(あわ)せて大滝集落内道路（万世大路）の 変遷(へんせん) についての一覧表を掲示した。**(別添資料ー1)**。

参考資料として、大滝会 HP の『わが大滝の記録』(PDF 版／紺野文英 HP 管理人制作）から「大滝位置図」（10 頁)・「大滝略年表」（11 頁)・「大滝集落図（昭和 10 年)」（12 頁)・「大滝集落図（昭和 51 年)」（13 頁）を展示した。

（実物については、大滝会 HP サイト　https://ootaki.xsrv.jp/wagaootaki.pdf　参照）

また、同じく参考資料として、明治時代の**絵師濱崎木麟の版画「栗子新道画図」**（明治 14 年 9 月、写し）も展示した。**(別添資料ー2)**

(〔当日ー5①～⑦〕参照)

参考 【絵師濱崎木麟(*)の版画「栗子新道画図」について】

「栗子新道画図」は、米沢の絵師濱崎木麟が栗子新道の開通前の明治 14 年〔1881 年〕9 月に（開通は同年 10 月 3 日）ほぼ完成した栗子新道（のち万世大路）の米沢から福島まで模様をスケッチ、版画にして発行されたものである。版画の「あとがき」には次のように記されている（大意、筆者拙訳による)。

「陸奥国と出羽国の境に、高く険しい栗子山というものが天に 聳(そび) えているけれども、この山の山腹に 隧道(ずいどう) を建設した。その延長は約 870mで、完成後は（米沢・福島間の）交通が大変便利になることであろう。

日本国における未曽有のこの大事業は、僅か 3 年で成し遂げられたものである。事業を推進した山形県令三島通庸公の功績はなんと偉大なことか。

この絵図は、私（濱崎木麟）が開通前にこの新道を通り画帖にその状況をスケッチしてきたものである。」

(*)【濱崎木麟(はまざきもくりん)】

明治期に米沢で活躍した四条派の絵師、本名八百寿。天保 14 年（1843 年）上杉藩士の子として米沢で生まれた。明治 44 年、69 歳で米沢にて他界。

幼少のころから米沢で四条派の絵師に学び、長じて上洛し四条派の鈴木百年に師事した。明治 2 年には蝦夷地支配所の視察を命じられ、当地の地形や風俗を克明に写生したという。『米沢市史第 4 巻近代編』の見返しに用いられている「米澤市明細繪圖」（明治 26 年）等優れた作品を数多く残している。絵は花鳥・人物等を得意としたが、画業のほか詩・和歌・俳句・書・琴等にすぐれた風流人であり、茶道は裏千家の師匠でもあった。(『米沢市史 第 4 巻 近代編』（平成 7 年 3 月、米沢市編さん委員会）から整理した。)

四条派とは日本画の一派、京都四条に住んだ松村月渓（呉春）を祖とする。丸山派（注：円山応挙）の写実性に南画（注：与謝蕪村に代表される）の画風を加えた様式。(『大辞泉』)

注　栗子新道画図については下記サイト（本大滝会 HP）参照。

https://ootaki.xsrv.jp/h30iizakabunka.pdf

（平成 30 年　第 13 回飯坂総合文化祭報告〔19 頁〕）

2. 展示写真等

大滝集落の日々の生活とそれに関連した写真を展示した。写真は 8 項目に分けて展示してみた。すなわち（1）**大滝集落編**、（2）**戦前編**、（3）**生業編**、（4）**日々の暮らし編**、（5）**大滝分校編**、（6）**お楽しみ編**、（7）**遊び編**、（8）**大滝周辺編**であるが、厳密に定義立てして分類したわけで

はなく便宜上の区分である。以下にその概要を記す（大滝会 HP『わが大滝の記録』(PDF 版／紺野文英 HP 管理人制作）を参考とした)。

(1)大滝集落編

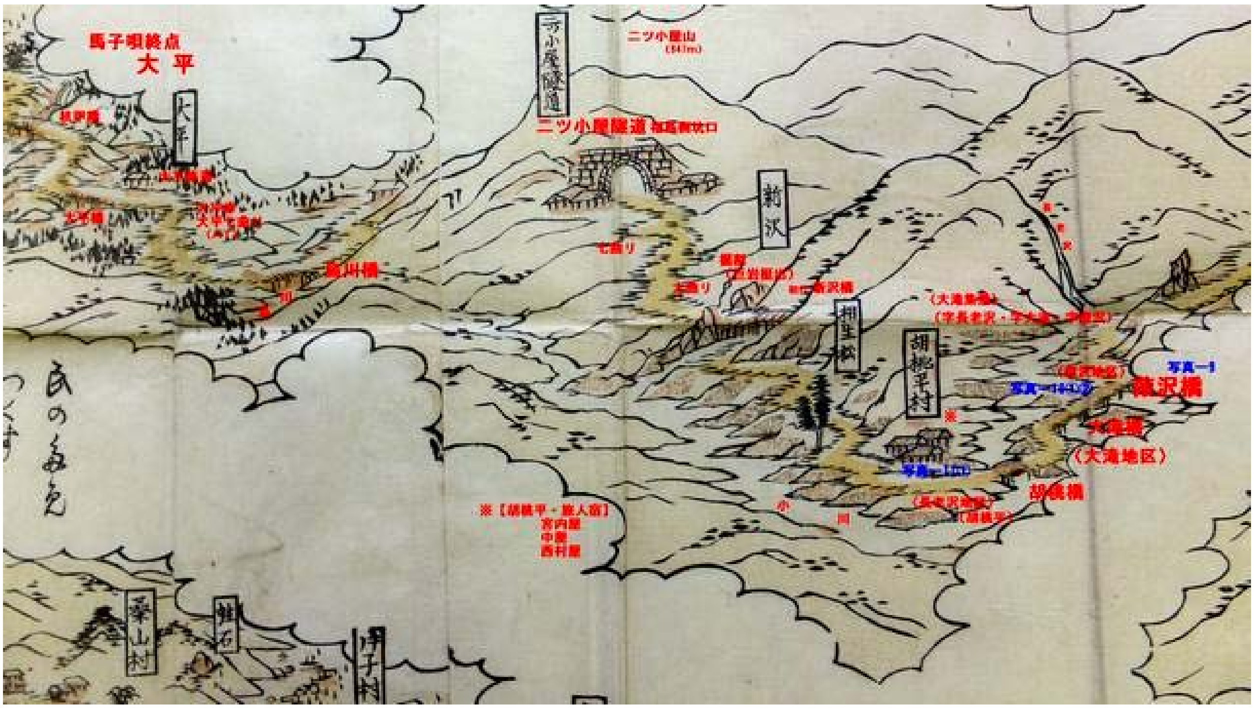
大滝集落の全体の分かる絵図や写真を集めてみました。

大滝集落は前述のように明治 10 年から始まったといわれている。明治時代或いは大正時代の集落の写真は見当らないようであるが、万世大路開通時の絵図（前述参照**「栗子新道画図」**明治 14 年 9 月）が残されている。当初 3 軒の宿屋から始まったとされるが、当該絵図には胡桃平村として 3 軒の家屋が描かれている。

戦前の集落全体の写真も見当らないが、昭和 7 年 8 月に福島側から米沢へ万世大路をスケッチ旅行した福島中学校（現福島高校）の美術教師（郷土史家）堀江繁太郎が赤岩道付近から大滝地区を描いたスケッチがあり、戦後の写真と比べて見てもほとんど変りがないことが分かる。（当該絵画は、『明治 9 年明治 14 年明治天皇御巡幸録』〔福島縣教育會　昭和 11 年 10 月 1 日〕の挿絵としても用いられている）

なお、断片的なものは幾つかあるけれども葭沢地区の集落の写真は見当らない。大滝鉱山の盛んなりし頃は住家も多くあったということであるが何処かにないものであろうか。

(【写真－1①～⑤B】【参考－1①～③】)



【写真－1①】 明治 14 年 9 月大滝集落の始まり胡桃平村（長老沢地区）。
三軒の家屋（旅館）あり。
宮内屋（高野家）、中屋（渡辺家）、西村屋（半田家）。
栗子新道画図（M14.9、浜崎木麟画）より 福島市史料展示室所蔵。

【写真－1②】　昭和 7 年 8 月、大滝集落大滝地区。
手前大滝橋、左側柾木家、紺野家、須田家奥に分校。
右側、須田家･太見家･蒲倉家。
【写真－1④】参照
福島中学校(現福高)美術教師(郷土史家)堀江繁太郎画
福島県立図書館蔵

【写真－1③A】　赤岩道から望む大滝集落
昭和 20 年代後半

【写真－1③B】　大滝地区、共同墓地付近から望む。
昭和 40 年代前半(栗子ハイウエイ
S41.5 以降)

【写真－1④A】 大滝地区 昭和 30 年代前半

【写真－1④B】 冬の大滝地区 昭和 30 年代前半

【写真－1⑤A】 胡桃平地区 昭和 40 年代前半

【写真－1⑤B】 胡桃平地区 昭和 40 年代前半

【参考－1①】 冬の大滝地区 昭和35年頃
福島交通の定期バスが通っている。

【参考－1②】 吹雪の大滝地区
昭和35年頃

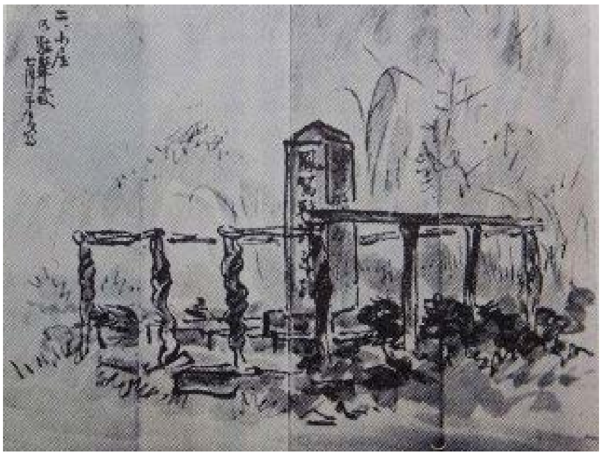
【参考－1③】 雪の大滝地区

(2)戦前編

戦前の写真類も極めて少ない。卒業式等の記念写真類はあるけれども、集落の様子や人々の生活の様子等を撮影したものについてはあまり伝えられていないようである。

そのような中で、当時大滝葭沢にお住まいであった後の大滝分校教員（在任 S17.4～S28.3）佐藤武雄氏の昭和9年の写真がありました。この写真は、旧二ッ小屋隧道福島側坑口にあった御駐輦（ごちゅうれん）記念碑「鳳駕駐蹕之蹟（ほうがちゅうひつのせき）」を国道 5 号の拡幅工事（昭和の大改修）に伴（ともな）い移転したのであるが、その移転終了時の記念写真と思われるものである。この石碑は、明治14 年〔1881 年〕10 月 3 日東北御巡幸中の明治天皇が当該箇所（当時福島県土木課の出張所があった）にて御小憩されたことを記念したものである。「昭和の大改修」（S8.4～S12.3）によって、当時貧困状態にあった大滝集落に就労の場が齎（もた）らされ貧困から脱出することができたという（『わが大滝の記録』）。そして、その工事を実施していた内務省に委託され作業員賃金支払いの責任者を務めていたのが佐藤武雄氏であった。当時 1,000 人もの作業員がいたそうで、中には短刀をちらつかせる不審者もおり、佐藤氏は、警察から特別の許可を貰ってピストルを懐中にしのばせ賃金の支払いにあったと伝えられている（『福島県直轄国道改修史』、元大滝住民の証言）。**(【写真－2①～2③B】)**

【写真－2①A】 昭和 9 年、後列右から 3 番目が佐藤武雄氏。
後の大滝分校教員（在任 S17.4～S28.3)。
当時内務省に委託された作業員賃金支払いの責任者。
前列中央は、内務省技手高橋忠太郎二ツ小屋出張所主任(所長)。
左上改修された二ッ小屋隧道坑門(福島側)と右側移転された鳳駕駐蹕之蹟（移転時記念写真）。



写真－2①B】 移転前の「鳳駕駐蹕之蹟」(明治 41 年 9 月 12 日建立)。左側背後に旧二ツ小屋隧道が見える。
『明治天皇御巡幸録』(蔵書)から転載。
堀江繁太郎画 昭和 7 年 8 月

【写真－2②A】 昭和 11 年頃の大滝御小休所（旧中屋旅館、渡辺家)。
『明治天皇御巡幸録』(蔵書)から転載。

【写真－2②B】 大滝御小休所(旧中屋旅館、渡辺家)

【写真－2③A】　明治天皇御尊影。
昭和７年軍人勅諭奉戴 50 周年を記念して頒布されたもので後一般にも頒布された。明治天皇が御小憩された中屋旅館渡辺家座敷に掲額されていたもの。

【写真－2③B】　明治天皇が御小憩された渡辺家のお座敷。写真上、御尊影掲額。

(3)生業編

大滝集落の元々の生業（なりわい）は、万世大路開通後（明治 14 年 10 月 3 日）宿駅（宿場街）としての宿屋業、関連する荷馬車運送業等で人馬の往来も頻繁で大いに栄えたようである。しかし、明治 32 年〔1899 年〕5 月奥羽南線（福島～米沢、現奥羽本線）の開通により人馬の交通量は激減し宿場街としての大滝は衰退した。また、明治 30 年代後半からから大正の中頃にかけては、大滝鉱山等で銅鉱が発見され鉱山ブームがあったようであるが埋蔵量が少なく長くは続かなかった。

その後大滝集落は村民の努力により林産業で定着した。特に、製炭業は大正初めに定着し、良質な木炭を生産して昭和 32 年には最盛期（22,300 俵、15kg/俵）を迎え大変景気も良かったようである。しかし、その後のエネルギー革命により製炭業は急速に衰退昭和 51 年頃には自家用とし数軒で生産が続けられていたが、昭和 53 年廃郷に伴い消滅した。製炭に次いで養蚕も盛んにおこなわれたという（昭和 10 年最盛期、昭和 36 年頃にはおこなわれなくなった）。また、副業としてゼンマイなどの山菜やヤマブドウ等の天然果実の製品化も好評であった。戦後は、ナメコ等の栽培が昭和 25､6 年頃からおこなわれ最盛期（昭和 34 年）には 130 貫の生産があったという。

なお、大滝では全世帯が製炭で生計を営んでいたわけではなく、10 世帯ほどはそれ以外（営林署森林管理、土木作業他）で生計を立てていた（昭和 35 年大滝集落 32 世帯 190 名）。

写真としては、炭焼きとナメコ栽培のみで、製炭業に次ぐ養蚕関連の写真が見当らないのが残念ではある。　**（【写真－3①～3⑤B】【参考－2①～②】）**

【写真－3①】《生業その 1　炭焼き稼業》 冬期、
炭焼き小屋への通路確保(道付け)。
集団で実施、昭和 30 年代前半。
生産量ピーク、昭和 32 年 22,300 俵。

【写真－3②A】　炭焼小屋
木を焚いて窯を乾かしているところ。

【写真－3②B】 カナイボリで窯(炭)だし作業中。

【写真－3③】　木炭(炭俵)運搬開始、中野日ノ峠
(東栗子トンネルの上)の炭焼小屋
にて。　昭和 35 年頃

【写真－3④】《生業その 2
共同作業ナメコ栽培》
ナメコ原木造りへの途中。
新沢橋にて、昭和 30 年代前半。
高欄喪失時代(戦時中、美麗なる
鋳鉄製高欄(欄干)供出)

【写真－3⑤A】 原木切出し

【写真－3⑤B】 原木 ナメコ種駒の接種

【参考－2①】 木炭原木、太い木は割る。

【参考－2②】 シバイ(湿灰) かけ

(4)日々の暮らし編

大滝集落の営み日々の暮らしは、年間の生活行事である元朝参り・消防団出初め式・盆踊り・祭礼・カヤ刈り（晩秋～初冬)・雪囲い（家を囲い防雪）などがあり、村を挙げての除雪や道付け（炭焼きの現場へ通う道作り)、運動会、正月の学芸会・青年団演芸会などがある。また、生業のお手伝い炭俵づくりは女性や子供の仕事であったという。ここでは、他の項目に分類しているものを除き、皆様にご提供頂いた日々の暮らしの写真を紹介していきます。

(【写真－4①A～4⑥】)

【写真－4①A】　除雪。
木炭出荷のトラック通路確保の為。
旧国道 13 号（旧大鍋橋付近）

【写真－4①B】 木炭出荷、みんなで見送り。

【写真－4②A】 炭すご造り　すご編み（原材料茅（かや））

【写真－4②B】 炭すご造り　組み立て
（炭俵造りは女性や子供の仕事）

【写真－4③A】　屋根葺き（補修）専門職人、
茅は良質な大平産。

【写真－4③B】 粟（あわ）を干す
（大滝では米は取れず、雑穀を栽培）

【写真－4④A】　中野村大滝消防団入団セレモニー
昭和 28 年 4 月

【写真－4④B】　出初め式は 5 月上旬八十八夜の日。
うしろは大滝常備の可搬式手押し
ポンプ。 昭和 30 年頃

【写真－4⑤A】　熊を飼う
昭和 28 年（今では許可が必要）

【写真－4⑤B】　野ウサギ捕って記念写真。
ウサギの肉は大変なごちそうで、
童謡「故郷」の歌詞は「ウサギ
美味しいかの山……」と大滝の
子供達は思っていたそうです。
（本当は、
「ウサギ追いしかの山…」）。

【写真－4⑥】　春はゼンマイ・ワラビなどの山菜、
秋はキノコや山葡萄穫り。
カエル岩付近。

（5）大滝分校編

大滝分校は、明治23年〔1890年〕2月村立中野小学校の分校として発足した。その後改廃があったが大正7年〔1918年〕4月常設分校となった。大滝分校は、地域文化の中心として大きな役割をはたしたけれども、昭和41年〔1966年〕5月に新国道13号栗子ハイウエイが開通すると昭和42年4月本校へ統合され廃止された。

昭和 22 年〔1947 年〕4 月学制改革で新制中学校が設置されているが、大滝の中学生は当初飯坂中学校（信夫郡飯坂町と中野村との町村立組合による設立）へ遠距離通学（徒歩)、のちに大滝分校が開設され近くに通学できるようになった。 昭和 23 年 4 月には中野村立中野中学校が開設されその大滝分校となったが、中野中学校は飯坂町立飯坂中学校（昭和 33 年 5 月飯坂町立大鳥中学校と改称）に統合され昭和 31 年〔1956 年〕5 月廃校となっている。しかし大滝分校は、飯坂中学校（のち大鳥中学校と改称）の分校として昭和 34 年 8 月まで存続している。

昭和30年前後には、小学生約40人、中学生約20人の合計60人前後もいて運動会の写真（「お楽しみ編」参照）を見ると夥（おびただ）しい数の子供達がいたのが分かる。昭和42年 統合時の小学生の数は14人であった。**(【写真－5①A～5③B】)**

（※分校の廃止年月等は、『わが大滝の記録』『中野小学校百年のあゆみ』『**福島県報**』**等**による。）

【写真－5①A】 上の大滝分校　初冬

【写真－5①B】 下の大滝分校
（昭和 36 年 8 月　3 代目校舎新築）

【写真－5②A】 『なでしこ文庫』(移動貸本)を届けてくれた自転車の郵便配達員（飯坂から 12km)のおじさんを見送る。昭和 32 年 10 月。

【写真－5②B】 中野村立中野中学校大滝分校の生徒と中野小学校大滝分校高学年の生徒が協力して分校に行く坂道を冬支度の石炭（ストーブ燃料)を運んでいる。
昭和30年10月中旬

【写真－5③A】 アコーディオン加藤栄先生の弟さん。 昭和 30 年代前半

【写真－5③B】 一年坊主、大滝橋にて 昭和 38 年頃

(6)お楽しみ編

運動会は、正月の学芸会と並んで大滝集落全員参加の一大イベントでした。運動会の日は、どの家庭でも父や母、兄も仕事を休み重箱弁当を準備、さらに大滝を離れて福島市などで生活されていた親戚縁者の方も駆けつけたという。

毎年旧正月 16 日頃、分校では児童による学芸会が催され父兄はわが子の学芸を参観するため手料理を重箱に詰めて集った。青年団員による演芸会もお正月の楽しみの一つであったようだ。

旧 8 月 17 日は氏神さま、山神神社の祭礼日である。昭和 5、6 年頃に山車(だし)から樽神輿(たるみこし)になり、大勢の子供達がワッショイ、ワッショイと樽神輿を担(か)ついで村内を練り歩き、葭沢、大滝、胡桃平（長老沢）の要所には祭礼の大きな幟(のぼり)が立てられた。

戦後、大滝青年団の活動も活発でキャンプなどが催され、「五色のつどい」にも参加されていたようである。「五色のつどい」とは、昭和 29 年〔1954 年〕7 月から始まった「都市と農村、労働者と農民の交流会」で毎年裏磐梯にて開催され、筆者等がたびたび参加していた昭和 40 年前後には約 2,000 名が集まっていた。**(【写真－6①～6⑤B】【参考－3①A～3②B】)**

【写真－6①】 大滝分校の大運動会。冬の学芸会とならび、大滝集落全員参加の一大イベント。大滝の父兄手作りの「竹登り」も見える。

【写真－6②A】 学芸会。

【写真－6②B】　学芸会　大入り満員
長老（役員）に特等席。

【写真－6③】 大滝山神神社祭礼 旧 8 月 17 日。
昭和 34 年 8 月

【写真－6④A】 大滝山神神社祭礼 昭和32年頃

【写真－6④B】　大滝山神神社
元朝参りや夏の祭礼で賑わう。
昭和40年頃

【写真－6④C】 昭和 15 年頃

【写真－6⑤A】　ニツ小屋、青年団合同キャンプ
（大滝・中野・大森）。
栗子隧道米沢側坑口にて
記念写真。　昭和 31 年 8 月

【写真－6⑤B】 五色の集いにも参加。
昭和 32 年(1957 年)第 3 回
(昭和 29 年第 1 回)
「裏磐梯にこだました 我等が仲間の歌声よ
桧原の湖も波騒ぎ平和の声はとどろいた」
(五色のつどいのうた)

【参考－3①A】 大滝青年会、
栗子隧道記念碑「栗子隧道碑記」にて
昭和 36 年 10 月

【参考－3①B】 下の分校の運動会

【参考－3②A】 上の分校運動会開会式

【参考－3②B】 二ツ小屋隧道・福島側坑口
合同キャンプ
バレーボールを楽しむ。
昭和 31 年 8 月

(7)遊び編

大滝の子供達は、いろんな遊びを楽しんでいたようである。多くの子供達が集まっている写も少なくない。サカナ釣りなどにはたびたび出かけていたようだし、夏は水遊びも良くしていたということであるけれども、残念ながらそれらの写真は集めることができなかった。

(【写真－7①～7④】)

【写真－7①】 当時珍しかったバイクに子供が集まる（清野商店のバイク）。昭和 32 年頃

【写真－7②A】 女子も一緒にソフトボール遊び、ホームランか。上の分校グラウンドにて、昭和 30 年代前半。

【写真－7②B】 分校通学路坂道にて 昭和32年頃

【写真－7③A】 旧国道 13 号積雪状況・大滝集落・高野家前。栗子ハイウエイ開通まではこの付近まで除雪されこれから奥（米沢側）は通交止め（12 月～翌年春 4 月まで）。昭和 40 年代前半

【写真－7③B】 これは、分校の上の山
（通称　学校山)でしょうか。

【写真－7④】 はしご遊び（大人）

(8)大滝周辺編（参考写真それからの大滝含む）

大滝周辺ということで関わりのあった施設や事業、特に鉱山関係を紹介しようとしたけれども、旧鉱山関係の稼行中（鉱山が稼働）の写真類は集まらなかった。また、昭和 36 年 10 月から現国道 13 号栗子ハイウエイの改築工事が開始され大滝の方々も多数従事されておられる。しかし、具体的にその就業状況を示す写真はないので参考までに大滝周辺の関連工事を若干紹介しておいた。

新国道開通後（昭和 41 年 5 月）に東栗子トンネル福島側の南斜面に飯坂スキー場が開設されたが 2、3 年で廃止された。現在リフト跡はあるけれどもスキー場があったということもほとんど忘れられており、関連する資料もほとんど入手できていない。また昭和 57 年 6 月頃から大滝地区に観光施設「大滝宿」が開設されたけれども盛んな時期は短く、一部施設が細々と営業を続けていたようだが 10 年ほどで消滅している。観光施設ということで写真なども残されていると思われるが手元には無い。

ところで現在、福島市内土船に所在する社会福祉法人「青葉学園」（児童養護施設）が戦後間もない昭和21年〔1946年〕6月青葉学園蛇体園舎として大滝集落から約6km茂庭側に入った山中（当時伊達郡茂庭村字蛇体、現在福島市飯坂町茂庭）に創立されたということは案外知られていないようである。その創立時には、大滝の佐藤武雄先生や斎藤乙次郎氏が学校開設その後の運営に尽力され、大滝の住民の方々もいろいろと協力されたようである。青葉学園の校舎は、旧蛇体鉱山（正式名茂庭鉱山、昭和18年頃閉山）の事務所兼飯場跡を利用したものである。

なお、大滝周辺の鉱山には上記蛇体鉱山のほか、大滝鉱山（昭和 20 年代後半閉山）・中野鉱山（昭和 39 年閉山）・大宝鉱山（正式名長老沢鉱山、昭和 46 年頃閉山）があり、大滝の方々も就労ないしは経営にも関与（大滝鉱山）していたようである。中野鉱山はそれなりに大規模で多くの従業員がおられ、子弟は大滝分校に通学されていたということである。

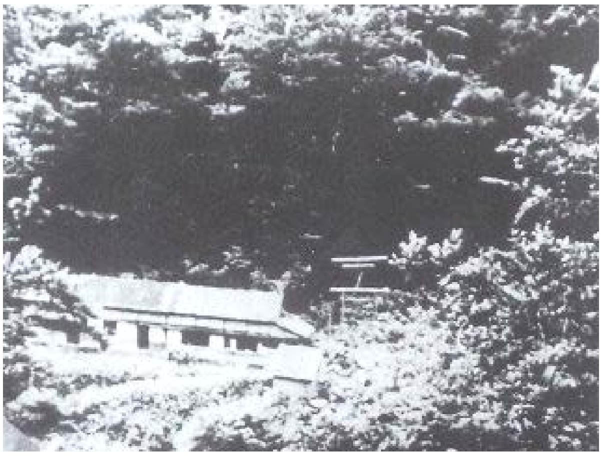
青葉学園及び大滝周辺の鉱山について下記サイト（大滝会 HP）に整理してあるので興味を持たれる向きには参照されたい。

https://ootaki.xsrv.jp/aobatansaku.html

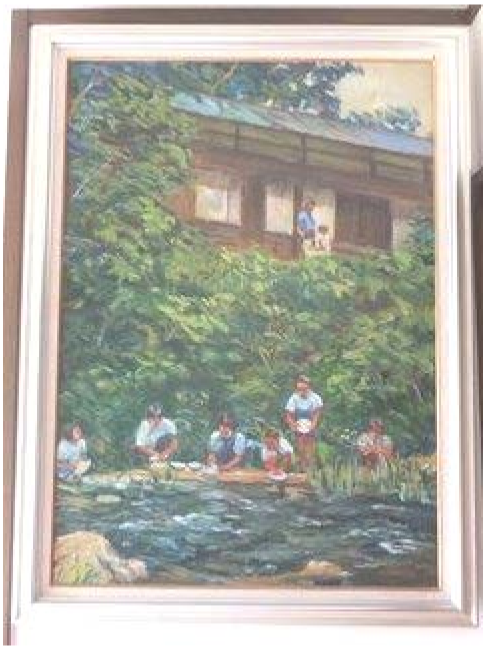
（「青葉学園探索記」）

（【写真－8①～②】【参考－4①～②】【参考－5①A～5③B】）

【写真－8①】 飯坂スキー場、昭和 42 年頃
大滝住民 5～6 名雇用される。



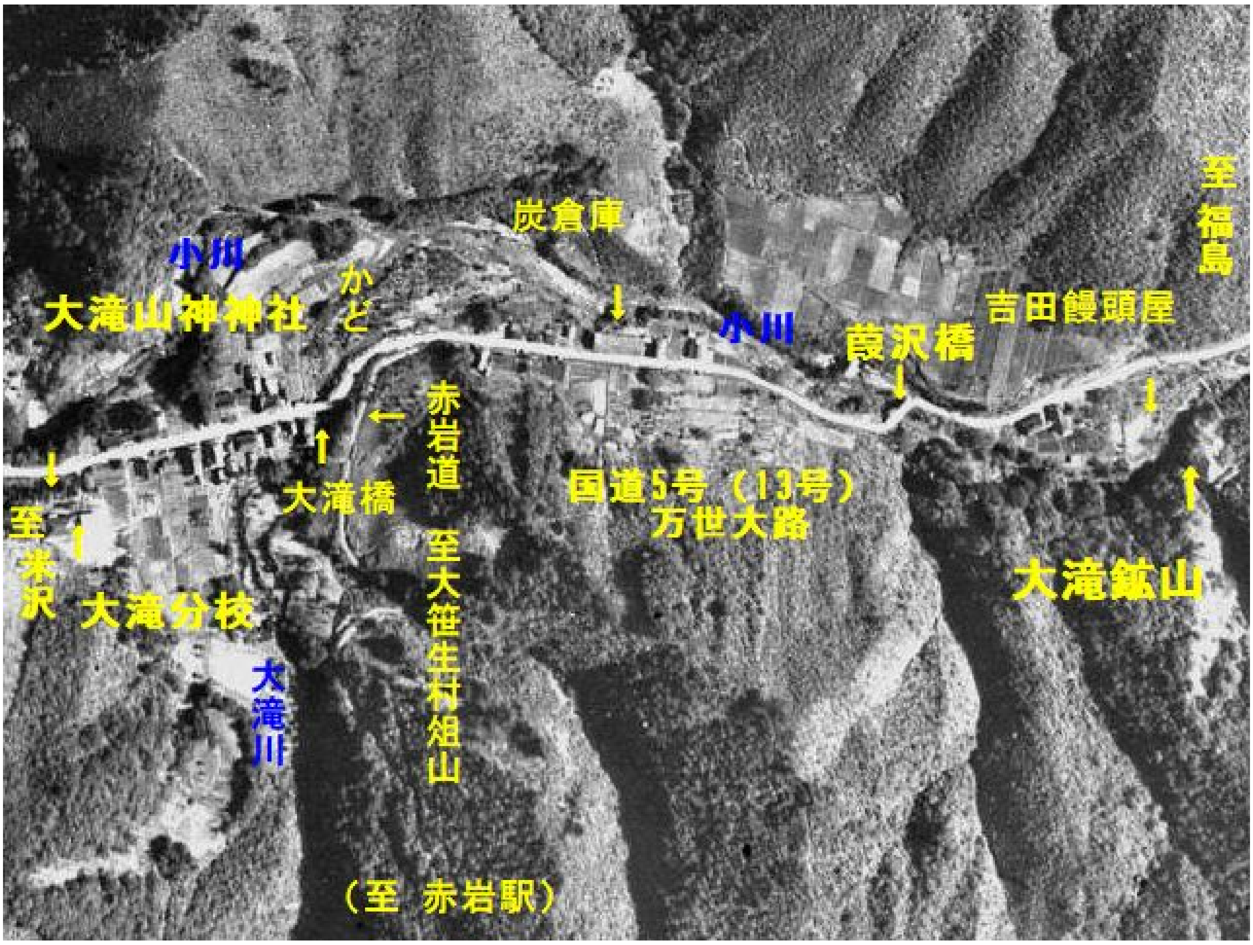
【写真－8②A】 青葉学園蛇体園舎（大滝から6km 茂庭側、旧蛇体鉱山事務所兼飯場跡を利用）。
昭和 21 年創立時には大滝佐藤武雄先生や斎藤乙次郎氏が協力。
昭和 21 年撮影。
青葉学園様提供



【写真－8②B】 青葉学園蛇体園舎絵画（昭和 21 年）
青葉学園様提供（たんぽぽ館）

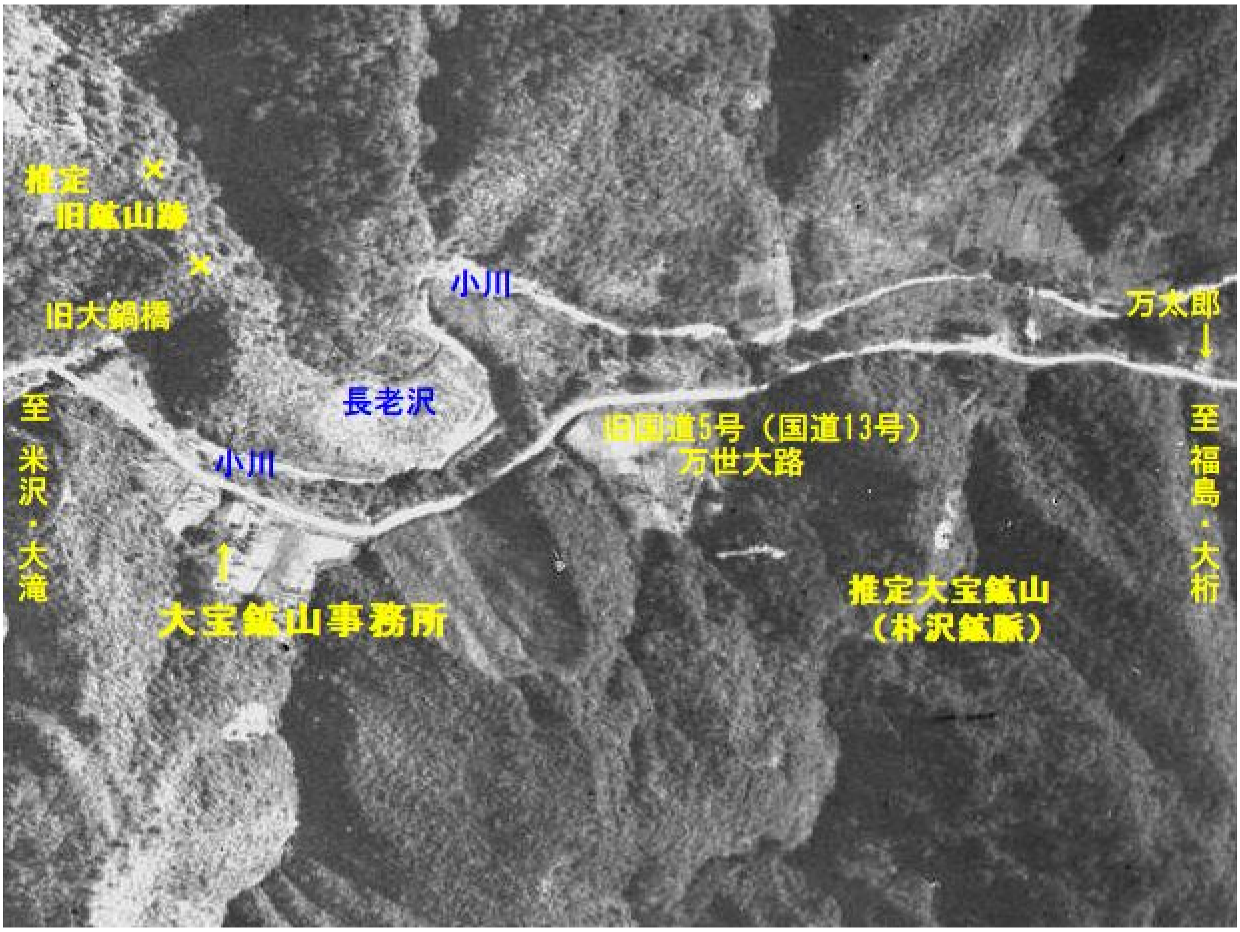
【参考－4①】　昭和 38～39 年度大滝道路改良工事
終点(建設省)
大滝第 2 トンネル米沢側坑口着工前
左旧猪橋、
右側旧国道あゆいまつ方面へ。

【参考－4②】　建設省砕石プラント　昭和 39 年
大滝共同墓地東側(現 E13 東北中央
自動車道大滝防災センター付近)

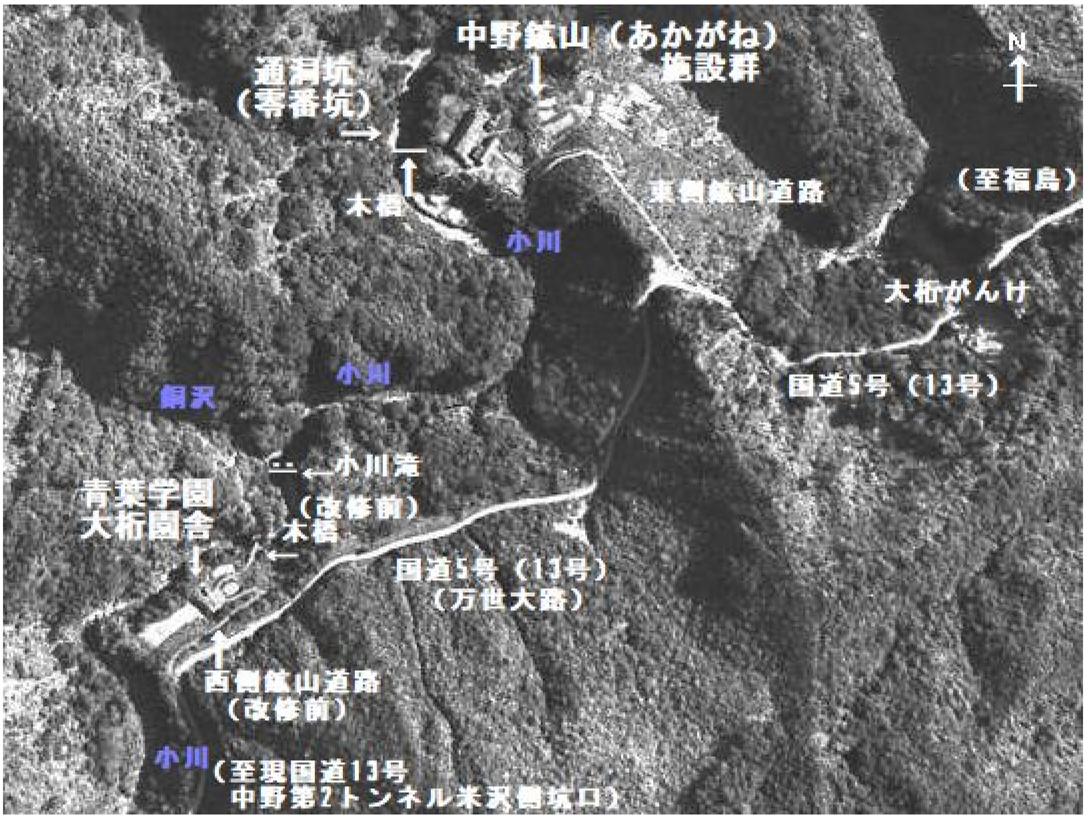


【参考－5①A】　昭和 23 年 6 月葭沢付近空中写真(米軍撮影)。
大滝鉱山･葭沢橋･大滝山神神社が見える。
国土地理院提供(一部加筆)

【参考－5①B】　写真中央、大滝鉱山跡（小川右岸
葭沢地区旧吉田まんじゅ屋さん対岸
H240506



【参考－5②】 昭和 23 年 6 月朴沢付近空中写真（米軍撮影）。
大宝鉱山事務所が見える（推定）。
国土地理院提供（一部加筆）



【参考－5③A】 大桁地区空中写真（米軍撮影）。
中野鉱山（あかがね）・青葉学園大桁園舎。
国土地理院提供（一部加筆） S230608

【参考－5③B】 写真中央転石（大石）箇所、閉塞された零番坑（通洞坑）跡。
その下、排水パイプで湧水を処理。
小川河原から望む。

〈それからの大滝〉

昭和 53 年大滝集落閉村後のエポックメーキング的な行事を参考写真として若干紹介した。

（【参考－6①～⑦】）

【参考－6①】　大滝記念碑除幕式
昭和 54 年 10 月 14 日

【参考－6②】　望郷 10 周年記念
ふるさと大滝を偲ぶつどい
平成元年 10 月 14 日

【参考－6③】　大滝山神神社再建
平成 18 年 10 月 8 日

【参考－6④】　望郷 30 周記念年大滝会の集い
（東北中央自動車道大滝トンネル見学）
平成 20 年 10 月 5 日

【参考－6⑤】　大滝会の皆さんと、ほとんど 80 代。
栗子隧道はこれが最後かも。
平成 29 年 11 月 5 日

【参考－6⑥】　大滝山神社前記念写真
「望郷大滝会 40 周年記念」
平成 30 年 5 月 20 日

【参考－6⑦】 大滝集落環境整備（除草伐木終了）
記念写真
令和元年 6 月 23 日

おわりに

福島市内から 20km ほど山奥にかつて存在した山村大滝集落（飯坂町中野）に独自の文化を築きながら生き生きとした営（いとな）みが 100 年も続いていたということは驚きである。時の流れとはいえ大滝集落は昭和 53 年に幕を閉じ歴史の彼方に忘れられようとしている現在､大滝会の皆様のご協力によりここにその一端を記録に止めることができた。大滝集落の歴史を永く伝えていきたいと思います。ご支援頂いた皆様に改めて感謝申し上げると同時に今後ともご協力をお願いいたします。

なお､大滝集落の歴史等については本文の中でも紹介しているが大滝会 HP 下記サイトをご覧下さい。

『わが大滝の記録』（PDF 版）

https://ootaki.xsrv.jp/wagaootaki.pdf

今回も大滝会 HP 管理人紺野文英さんには編集構成を含めたいへんお世話になりました。
ありがとうございます。（文責･写真　鹿摩貞男）

完